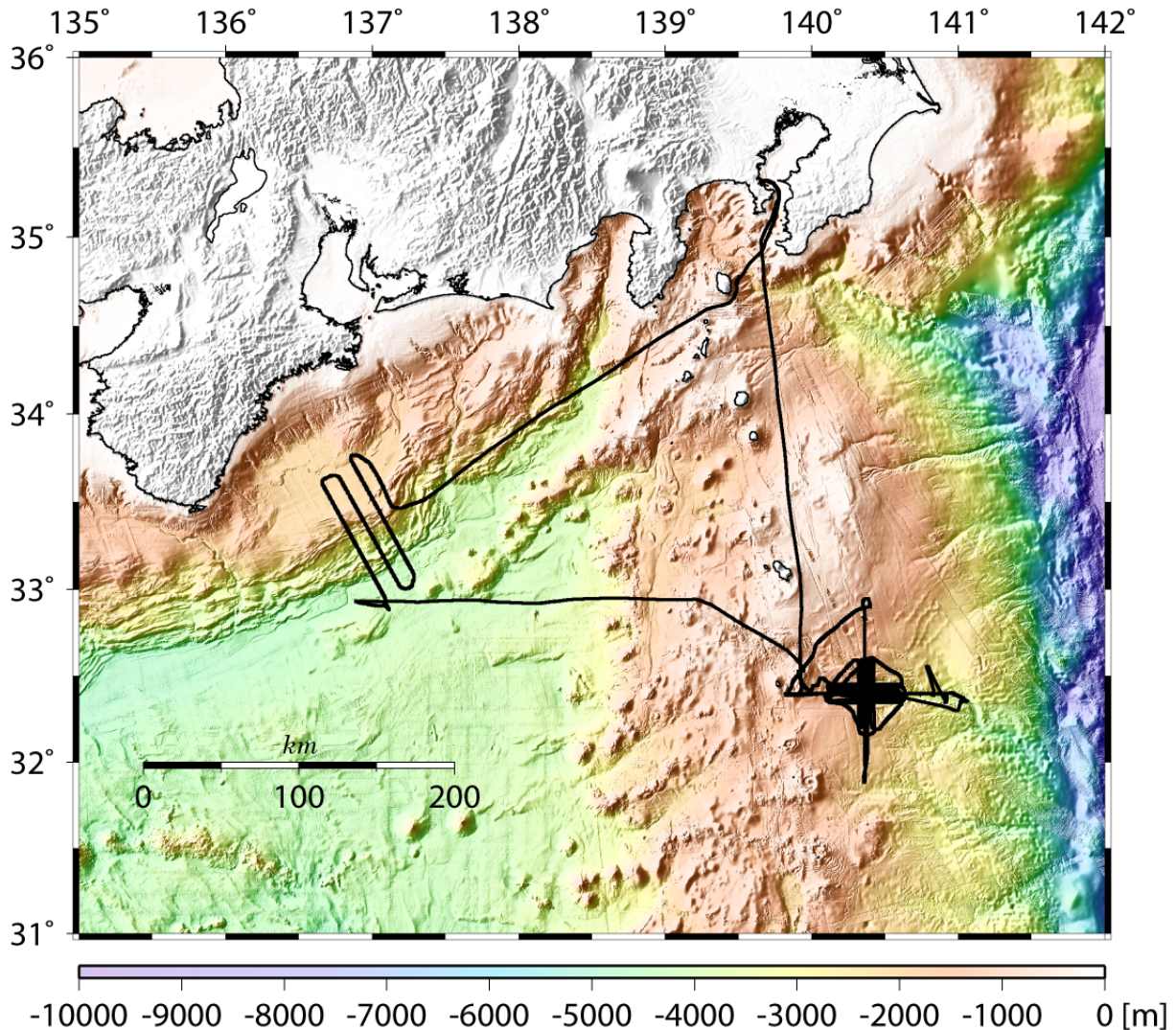


クルーズサマリー

1. 航海関連欄内容：

- (1) 航海番号・使用船舶：KR08-09・かいのい
- (2) 航海名称（実施要領書名）：平成20年度「伊豆小笠原海域および熊野灘における地震探査調査研究」
- (3) 首席研究者・所属機関：小平秀一・海洋研究開発機構
- (4) 課題代表研究者・所属機関：
深尾良夫・海洋研究開発機構、
- (5) 課題受付番号・研究課題名：
 - 1) 伊豆小笠原島弧の地殻進化過程解明 -IODP Project IBM 為の構造研究、
 - 2) 統合国際深海掘削計画(IODP)掘削プロポーザル(提案番号 707:南関東アスペリティ地域のライザー掘削及び長期孔内計測)のための事前調査研究
- (6) 航海期間・出港地～寄港地～帰港地：
平成20年7月28日～8月12日・機構～機構
- (7) 調査海域：伊豆・小笠原海域、熊野灘海域
- (8) 船舶の航跡図：



2. 本文：

(1) 目的：

平成 20 年度所内研究課題「伊豆小笠原島弧の地殻進化過程解明 -IODP Project IBM 為の構造研究-」の一環として、深海調査研究船「かいれい」により、掘削プロポーザル作成に必要な地下構造イメージを得るための屈折法地震探査、反射法地震探査を実施する。航海中は、地震探査調査と併せて、海底地形観測や重力探査、地磁気探査を並行して実施する。なお、本航海にて設置した海底地震計は KY08-08 航海にて回収を行う予定である。さらに、熊野灘において今後の南海トラフ地震発生帯掘削に必要な地震探査データを取得するため反射法地震探査を実施する。

(2) 実施項目：

1) マルチチャンネル反射法地震 (MCS) 探査

総容量 7800 立方インチのチューンドエアガンアレイを震源部とし、グループ間隔 12.5m で 444ch のハイドロフォンストリーマーを受震部とする MCS システムを用いて、熊野海盆および北部伊豆小笠原にて MCS 探査を実施した。

2) 海底地震計 (OBS) による波形観測

更新した MCS システムの波形観測を行うため、北部伊豆小笠原での MCS 調査の際に OBS を設置した。

3) 海底地形・地磁気・重力観測

航海中は海底地形・地磁気・重力観測を連続して実施した。海底地形は SEABEAM2112.004 によって、地磁気は船上三成分磁力計によって、重力は船上重力計によって観測した。

4) XBT

海底地形調査の音速補正用に XBT を実施した。